

# TOUR DE HOKKAIDO 2006 NEWS

4th.Stage 2006年9月17日発行

## 区間個人順位

順位	名前	チーム	タイム
1	マリウス・ヴィズィアック	NIPPO	4:17:40
2	ウェズリー・サルツバーガー	オーストラリア	+0:00
3	ジェイコブ・アーカー	カナダ	+0:00
4	山本雅道	スキル・シマノ	+0:00
5	水谷壮宏	VANG	+0:00
6	カステン・リーゲル	ドイツ	+0:00

## 個人ポイント賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	鈴木真理	ミヤタ・スバル	64
2	ウェズリー・サルツバーガー	オーストラリア	61
3	宮沢崇史	VANG	57
4	マリウス・ヴィズィアック	NIPPO	53
5	西谷泰治	愛三工業	50
6	ジェイコブ・アーカー	カナダ	38

## 団体総合順位

順位	チーム名	タイム
1	スキル・シマノ	51:47:11
2	カナダ	+3:47
3	ミヤタ・スバル	+5:57
4	VANG	+8:16
5	愛三工業	+9:56
6	オーストラリア	+10:41
7	NIPPO	+15:03
8	マトリックス	+19:59
9	ドイツ	+20:45
10	チャイニーズタイペイ	+21:40
11	北海道地域選抜	+27:15
12	ブリヂストン・アンカー	+32:07
13	韓国	+33:53
14	中央大学	+33:55
15	日本大学	+34:13

## 個人総合時間順位

順位	名前	チーム	タイム
1	西谷泰治	愛三工業	17:15:01
2	鈴木真理	ミヤタ・スバル	+0:06
3	ダニエル・マッコネル	オーストラリア	+0:14
4	ジェイコブ・アーカー	カナダ	+0:17
5	土井雪広	スキル・シマノ	+0:19
6	ウェズリー・サルツバーガー	オーストラリア	+0:25

## 個人山岳賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	土井雪広	スキル・シマノ	26
2	辻善光	立命館大学	19
3	マーシュ・クーバー	カナダ	12
4	中島康晴	鹿屋体育大学	10
5	普久原奨	ブリヂストン・アンカー	9
6	エリック・ウォルバーク	カナダ	8

## 4th.Stage ヴィズィアック (NIPPO) が昨年に続く区間2勝目。西谷 (愛三工業) は首位を死守

第4ステージは、美瑛市役所をスタートし、空知、石狩地域を巡り札幌大橋からモエレ沼公園にフィニッシュする180kmの比較的平坦なコース。

レース序盤は大逃げを決めたいチームがアタックを繰り返す。リーダーの愛三工業は、個人総合時間上位以外の選手の逃げを容認する感じだが、どのチームも逃げに選手を乗せたいために、アタックの潰し合いの状況が続く。

その中で岡崎和也 (NIPPO)、柿沼章 (ミヤタ・スバル)、マーシュ・クーバー (カナダ)、宮澤崇史 (VANG)、秋元佑一朗 (ブリヂストン・アンカー) の6人が逃げグループを形成することに成功する。

この6人は後続とのタイム差を広げて行く。一時は5分以上のタイム差になり、宮澤は暫定リーダーとなっていた。

しかし、メイン集団をコントロールする愛三工業は、焦ることなく集団を引き続ける。

レースはこのまま淡々と進むが、補給所の後の上りで先頭から秋元が遅れて、先頭は4人になる。

集団は最後のKOMで動きを見せた。



ラスト500mでNIPPOの岡崎が捕まったが、ステージを制したのはチームメイトのマリウス・ヴィズィアック (NIPPO) だった。昨年に続き2勝目

スキル・シマノが攻撃をし、これにより後続集団が活性化。しかし、愛三工業の鉄壁な走りの前に、メイン集団から抜け出せた選手はあらず、再び愛三工業のコントロールが始まる。

残り10kmでタイム差は1分30秒程。先頭4人からアタックが始まる。後続も逆転をかけて、再びアタックが始まる。ここまで仕事をしてきた愛三工業のアシ



このステージ大半を逃げていた5人。岡崎和也は最後単独になり、残り500mで後続メイン集団に吸収されてしまった

ストたちが集団後方に下がってしまうが、西谷が自らチェックする。

そしてラスト1km。先頭から岡崎が抜け出し、逃げ切り優勝かと思われたが、ラスト500m手前で、メイン集団が追いつき、大集団のスプリント勝負となり、マリウス・ヴィズィアック (NIPPO) が2年連続の2勝目のステージ優勝を決めた。

## Next Stage ついに来た大通公園クリテリウム。最後の戦いはいかに？

あすは第5ステージ。ツール・ド・北海道史上初の大通公園クリテリウム。大観衆を前にした都心のレースをファンも選手も楽しみにしていることだろう。

しかし、総合優勝ほか、各賞にからんでいる選手たちにとっては、楽しみとは言いづらい状況だ。

個人総合時間賞は西谷泰治を追う4人の選手が、計算上は逆転可能だ。2位の鈴木真理 (ミヤタ・スバル)、3位のD.マッコネル (カナダ)、4位のJ.アーカーはともにスプリント力があるので、あすのコースでは粘りを見せたいところだ。

また第4ステージでめばしい動きを見せなかったスキル・シマノもチーム戦術で最後に仕掛けてくるかもしれない。

リーダーチームの愛三工業は、チーム力でそれをどこまでしのげるか。

ポイント賞も4位までがわずかに11ポイント差。一度はリーダー・ジャージを着た宮澤崇史 (VANG)、第4ステージ優勝のヴィズィアック (NIPPO) あたりは、要注意といったところか。

また、U23も上位3人は7秒差と、こちらもまだまだわからない。3位に付けている島田真琴 (法政大学) にはスプリント力も期待できるので、あすのコースでどんな動きを見せられるか。

大通公園という、街の中心で行われるレースでは、初めて自転車レースを見るという人も大勢訪れるだろう。ぜひ、フェアで真剣なレースを見せてもらいたい。



鉄壁な走りをみせて、リーダー・ジャージを守った愛三工業。途中、コントロールに混じった日本大学の太庭伸也はステージ9位に入り、U23トップを獲得